

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105473		
法人名	医療法人 昭和会		
事業所名	昭和会病院 グループホーム新地		
所在地	長崎市新地町6番3号		
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果市町村受理日	平成25年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日	平成24年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の前には、湊公園や中華街、ダイエー等の商業施設があり、ランタン祭、おくんち、中秋節祭など多くの催しが開催され、露天見物なども楽しめる。水辺の森公園や美術館なども歩いて行ける距離で、散歩コースに最適である。バスや電車などの公共交通機関もよく、面会者も多い。母体が医療機関であり、往診や通院介助など母体の協力を得ている。介護支援専門員、看護師、社会福祉士、介護福祉士、2級ヘルパー等の職員が配置され、また理学療法士や作業療法士などの訪問もあり、多職種で統合的な支援を行っている。グループホームを開設して7年目に入るが、グループホームの理念を具体化させた、「ほっとする、慣じみの顔が傍にある、楽しい笑い声と共に過ごせるグループホーム」と言う目標を達成できるように、日々努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は長崎の中心部に位置し、近隣には水辺の森公園や中華街、洋館の立ち並ぶ観光地があり一年中賑やかな場所にある。事業所は地域とのつながりが強く自治会長や薬局店主などの交流があり、事業所が地域向けに発行する「新地たより」には地域の紹介記事が多く掲載されている。家族会の開催やアンケート、満足度調査の実施から利用者を取り巻く人たちの意向を抽出し反映するよう努力している。職員研修は年間計画を実行し評価・反省をして次年度に活かす仕組みが出来ており、職員の質の向上に努めている。看取りに取り組みたいという職員の声を受けて、一年がかりで実現可能な段階まで進んできている。職員一人ひとりが働く意欲を持つ職場となるよう自己評価・個人面談・フォローの仕組みが構築されており、今後も利用者本位に邁進することが期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	3つの理念を具体化して、忘れないようにキッチンや廊下に貼り出したり、朝礼時に唱和することで理念の共有化を図り、実践につなげている。	職員が作った3つの理念は親しみやすい文言であり、事業所内に掲示しパンフレットにも掲載している。理念にある「自分の能力を生かして」は利用者が決定できるよう洋服や食事等の選択肢を多く揃えたり、「笑顔で楽しく過ごせる」ために虐待や拘束につながる声かけにも注意している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会での回覧板配りや近所への買い物、散歩など、日常的に交流しており、地域の方とつながりながら生活している。	近隣には中華街があり、事業所の地域連携係担当者が話し合っ掃除に参加したり、ランタンフェスティバルやスタンプラリーの情報を得て参加している。小学校区の清掃には利用者も参加しており、地域との交流を図っている。事業所は地域に向けた便りを作成し配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームから地域発信としての広報誌の発行や、買い物や散歩、行事などで地域へ出向いたり、地域の方が、防火訓練に参加することで、認知症の方の理解や支援方法が活かせるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回の運営推進会議を行っている。開催日を固定化し、家族の方が出席しやすいようにしている。会議では、報告や話し合いを行い、自治会や薬剤師の方の助言などをサービスに活かしている。	2ヶ月に1度規程のメンバーで開催している。内容は状況報告や事業計画を伝えるほか、地域の薬局の方のアドバイスを看護師に伝えたり、市の虐待防止のアドバイスを受けて、利用者と一緒にお茶をするなど反映している。家族には便りに案内を載せて知らせており、参加を促している。	運営推進会議の記録を家族にも郵送するなど、興味を持ってもらうよう工夫し、多くの家族の参加につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議出席の際には、事業所の実情やケアサービスの取り組みなどの情報を共有したり、直接担当者に相談や不明点など確認できるように協力関係の構築に努めている。	行政担当課とは運営推進会議の出席時に意見交換を行っており、それ以外にも介護に関する制度改正等での相談や不明点などを尋ねる時にも連絡を取っている。事業所の実情を伝え協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者や全ての職員は、「身体拘束を絶対しない」事を掲げている。身体拘束廃止委員の担当者を決めており、1年間計画で、職員の研修や指導に当たり、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員を通じ年間計画に沿って職員に身体拘束に関する研修・指導が行われている。職員は声掛け時の言葉使いや声の大きさにも注意を払い拘束のない日々の支援に取り組んでいる。玄関の施錠は防犯の為夜間のみ行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止研修会に積極的に参加している。虐待防止委員の担当者が、1年計画で、職員の研修や指導に当たり、職員全員で虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度のマニュアルを作成し、職員全員が再確認し、家族への相談や助言、必要機関への紹介など活用出来る様になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等に十分説明した上で、不安や疑問点を確認し、理解・納得が得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、行事後のアンケート調査、年に1回の満足度調査を通して、本人や家族の意見や要望を聞く機会を設け、グループホームの運営に反映させている。	家族会の開催やアンケートの実施に加え満足度調査を行うなど意見や要望を聞く取り組みを行っている。家族連絡網を作るなど家族同士の関係が構築されている。事業所は利用者の衣服を着替える際の方法を実演し家族に知ってもらうなど工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼やカンファレンス、定例会議などに管理者は必ず出席して、職員の意見や提案を運営に生かせるようにしている。また、年に1～2回の個人面談により意見や提案を聴取している。	行事や外出の企画など定例会議で提案がある。平成18年度から個人面談のもと職員自身の目標に沿って研修受講を勧めている。また年に1、2回自己評価を行い、自身を振り返る機会を設けている。職員の意見から業務分担や担当を変更するなど運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に管理者と連絡を取っており、定期的な職員面談や会議など通して、職員のやりがいや目標に対して周知しており、積極的に協力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員の情報を管理者と共有している。研修については、情報開示を行い、積極的に法人内外の研修参加を奨励している。また、現場に沿った研修など計画し、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流できるように、協議会や研修など参加する機会を与えている。また、他事業所からの見学なども受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、必ず施設見学や自宅訪問を行なう。そこで、本人の困っていること、要望など傾聴しながら、不安解消に努め、施設でも自宅同様な環境が継続出来る様に努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談時より、入所希望に至った経緯などを確認し、入所による不安や要望などについて、耳を傾けながら信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前には、主治医や介護支援専門員、地域包括支援センター等からのご意見を頂き、支援の必要性を見極めている。また、必要に応じて、他施設の資料や紹介なども行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者の方の能力に応じて、共同生活する者同士の関係性が築けるように、共に洗濯、掃除、調理、おやつ作り、レクレーションなど行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日や行事の際には、家族に参加してもらい、本人と家族、職員の関係を深めている。また、本人の日常生活が家族に分かるように、廊下などに写真の展示を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が馴染みのある市場や商店街などに出かけたり、友人の面会等を積極的にお願している。また、主治医についても、今までお世話になった医師に依頼している。	利用者の半数以上は周辺に住んでいた方であるため、近所の人や友達が面会に来ることが多い。家族の面会も多く、墓参りや法事に一緒に出かけている。買い物では懐かしい話に会話が弾んでいる。利用者の希望を聞き、年賀状や暑中見舞いを送ったり、電話をかけるなど馴染みの人や場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に常に注目し、席の配置を決めている。利用者同士の関わり合いを重視し、おやつ作りや家事等、一緒に行っている。また、一人ひとりが孤立しないように、職員が常に気がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院、他施設入所や死亡などにより、利用者が退所された後も、職員が面会に向いたり、本人や家族へ手紙を送るなど、退所後も関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望など、定期的に確認する以外にも、毎日の生活の中で、出来る限り本人の意向に添えるように、食事時間や外出、洋服選び、おやつ希望に添い、無理なく生活ができるように支援している。	職員は利用者との日々の関わりの中で意向を汲み取るよう心がけている。意思疎通の困難な方は家族から情報を得て好きな事を把握し支援に反映している。難聴の利用者にはゆっくり話をするなど、職員は本人のことを今以上に知るために工夫、検討を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの意向やアセスメントによって、一人ひとりが望む生活づくりと一緒に築けるように、時間をかけて傾聴に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の状態など把握できるように、申し送りやカンファレンス、生活支援記録、モニタリングなどを通して、情報の共有化を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向などを確認して、計画作成者を始め、居室担当者、看護師等から情報や意見を聞き、介護計画を作成する。サービス開始前には、本人や家族を含めケア会議を開催している。	利用者の希望を聞き取り家族の思いも確認しながら介護計画を作成している。利用者には担当職員がおり、月に1度家族に介護記録を説明している。家族はプランの達成度を確認した後、サインする仕組みがある。また看護師により看護記録の説明も同様の仕組みで行われている。ケア会議には本人・家族も出席している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果などは介護支援日課表や介護記録、日誌などに記録を行ない、職員全員が確認出来る様にしている。また、介護計画の見直しなどにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する入所者や家族の方の状況に合わせて、柔軟な支援が出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の施設やスーパーなどを利用したり、地域の行事に参加し、馴染の関係をすることで、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の方が希望された、入所前からのかかりつけの医師にお願いしている。また、看護師が主治医に対して、連絡・報告等を行い、適切な医療が受けられるような体制を取っている。	利用者や家族の意向に沿い従来のかかりつけ医を受診している。家族が同行した場合には受診結果の報告を受け記録している。要望があれば職員が受診支援を行うこともある。申し送り時に受診結果を周知し職員全員で適切なケアが行えるように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常生活で捉えた情報や気づきを、いち早く看護師に報告相談し、夜間でも適切な医療が受けられるような体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入院中、退院時と看護師が、病院関係者との情報交換など行う事で、早期の回復に向けての協力を行っている。退院後も、医療の継続が図れるように病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や看取りの介護を希望した場合、施設で出来る事や出来ない事などを、入所当初から確認している。しかし気持が揺らぐ事がある為、必要に応じて、関係者と共に再度説明や確認など行っている。	利用開始時に事業所の看取りへの取り組みに関する指針の説明を行っている。医療機関・家族との人間関係を構築し互いに協力し合えるチームとなって看取りに対応できると考えている。職員から看取りについて学びたいとの声が上がりに、一年をかけて研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が、救急蘇生法の研修を受講している。また、応急手当などのマニュアルも作成し、誰でも閲覧できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害時など避難移動を区別する災害マップを作成している。また、年に3回の防火訓練の中で、夜間想定や消防署からの防火教育など地域の方を交えての避難訓練の実施も行っている。	3月、7月、10月に訓練しており、内一回は夜間想定である。消防署の都合で立会いの訓練は2月予定している。避難場所は決まっており、訓練には家族や地域の人、近所の人も参加している。緊急連絡網を使つての訓練も行っている。備蓄もある。ただし、持ち出し品は準備しているが、訓練で持ち出したことがない。	災害時の持ち出し品は準備しているだけでなく、避難訓練時に持ち出せるかの確認が必要と思われる。設置場所の検討も含め、有効に活用できるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーが損なわれないように、時と場所などを考慮して、言葉かけや対応をしている。	職員は利用者の尊厳を重視し、トイレ誘導や失敗した時にはさりげない対応を行っている。個人記録は所定の場所に保管しており、職員は入社時に守秘義務の制約書を提出している。新人には1年間サポートに付き、利用者への言葉かけや対応を指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ、誕生ケーキ、行事食、希望食等食事に関して希望を聞き、衣服選び、レクリエーション内容、散歩コース等、自己決定が出来る様にしている。また、おくんちでは自分が好きな物を購入し楽しんでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々変化する状態の中で、ご本人の体調や精神状態に応じて、食事、休息、居室、その他等、ご希望される支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の中での洋服選びや、外出時には、帽子、スカーフなどを身につけ、おしゃれを楽しんでいる。行事の際には、浴衣を着たり、お化粧品をして、写真を撮ったりする楽しみもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日、希望食、おやつ等一緒に買い物に出かけて選び、皮を剥いたり、作ったり、片付けたりと、能力に応じて協働している。また、家族会などで家族が訪れた際には、手作りのおやつを作っている。	委託業者から献立に沿った素材が冷凍で届き、職員が調理している。嗜好調査をもとに代替食を提供したり、パン食にも個別に対応している。1ヶ月に1度、希望を取って調理して食事しており、近くの公園に弁当を持って出かけることもある。家族と一緒にケーキとお茶を楽しむ利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取カロリーや水分量の設定はあるが、体調や好みもあり一律でない為、おやつでの調節や、食事量の観察により栄養補助食品やトロミ剤の使用等行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所で毎食後の口腔ケアを自分で行ったり、見守りでのケアを行っている。また、全介助が必要な方も、毎食後の口腔ケアを行い、必要時は、往診による歯科診療を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄を確認し、排泄パターンの把握に努めている。日中は布パンツを着用し、トイレでの排泄や自立を心がけている。	排泄パターン表を利用し利用者一人ひとりのパターンを把握し、タイミングをみて声掛けをトイレ誘導している。その結果、リハビリパンツから布パンツに改善された事例もある。職員は利用者がトイレでの座位による排泄を重視し、排泄の自立支援に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の全身運動や個別運動、散歩など積極的な運動を心がけている。また、水分量や繊維の多い食材など検討して、おやつ等で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日以外にも、発汗や汚染により入浴を希望される方はその都度、対応している。また、浴室には暖簾を下げ、雰囲気味わってもらっている。ゆずを入れたゆず湯は、入所者の方の楽しみになっている。	週に2日は入浴できるように支援しており、利用者一人ひとりの希望による入浴に対応している。同性介助の希望にも対応している。利用者が入浴を楽しめるよう暖簾を下げたり、季節を感じるゆず湯など工夫し支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望で、リビングの畳やソファ、居室等、本人の生活習慣やその時々状況で好きな場所で休息を取っている。夜間はテレビを見たり、ラジオを聴いたり安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、カードックスに記載する以外にも、効果・副作用・用法・用量など記載されたものを、キッチンに置き、いつでも誰でも、確認が出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を知り、出来る限り施設での生活に生かしている。例えば、裁縫・雑巾作り・刺し子・折り紙・ゴミ箱作り・料理などで、それぞれが得意なものを生かして楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人のその日の希望によって、買い物や散歩など外出している。ランタンやくんち、帆船まつり、水辺の森公園、美術館なども近くにある為、ご家族やボランティアの方と一緒に外出する時もある。	利用者の希望に沿って買い物や散歩の外出支援を行っている。近隣に公園や公共施設も多い事や地域の祭りが開催される場所でもあり、その際は家族等とも外出することもある。車椅子利用者も希望に沿って外出できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物やおくち等のイベント時、本人が小遣いを持ち、一人ひとりが好きなものを購入し、支払いなど、支援しながらお金が使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自宅への電話を希望される方については、ご家族の了解のもと連絡している。年賀状など、本人が出来る範囲で記入して頂いて、家族へ毎年送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は出来る限り落ち着けるように、家庭的な雰囲気を感じている。リビングには、季節観が感じられるような、入所者自身が作ったカレンダーや生花などを飾っている。	リビングの広い窓からは湊公園や中華街が見え、明るく清潔で過ごしやすい空間となっている。利用者は自由にリビングに集い、思い思いに好きな場所で過ごしている。毎朝職員が清掃しており、廊下やリビングにはカレンダーや行事の写真が掲示してあり、心地よく生活できるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の悪い利用者については席替えにて調整しており、気の合う者同士が楽しめるような席の配置になっている。また、畳やソファ等に好きな者同士が座わり、お喋りが出来る様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅での生活に近づくように、馴染の物を持参してもらっている。また、本人や家族の写真などを貼り、居室で楽しめるようにしている。居室空間は、自由に使ってもらっている。	居室は2、3階にあり、利用者が使い慣れたものや好きなものを持ち込めるように特別な持ち込み制限は設けていない。掃除や換気、温度調節は職員が行っており、家具や家族の写真、衣類など本人が居心地良く暮らせる空間となるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視力障害者や杖歩行の方が、スムーズにトイレ迄行ける様に、廊下に障害物を置かないようにしたり、手摺を設置して自立を促している。また、トイレのドアの色も居室と変えることによって、わかりやすくしている。		